

令和4年度第1回さいたま市いじめのないまちづくりネットワーク 議事録

- 1 日 時 令和4年7月25日(月) 14時30分～16時
- 2 会 場 与野本町コミュニティセンター 多目的ルーム(小)
- 3 出席委員 沢崎 俊之 神尾 尊礼 溝口 景子 久世 晴雅 望月 三之
(敬称略) 村山 和弘 西脇 賢一 渡津 一浩 若松 隆 三島 公夫
竹越 利之 直井 将成 辻村 佳久 長澤 和哉 小田嶋 哲
- 4 欠席委員 松本 雅彦 松本 敏雄 根本 淑枝 橋本 哲 須藤 明
(敬称略) 八島 健 田邊 泰 内河水穂子 富岡 智子 瀬戸口憲二
高橋 篤
- 5 事務局 池田 喜樹 子ども未来局長
安部 健一 子ども育成部長
栗原 ゆり 子ども育成部参事兼青少年育成課長
金子めぐみ 青少年育成課係長
武井 悟 青少年育成課主査
辻本 勇真 青少年育成課主事
- 6 説明者 長岡有実子 学校教育部参事兼指導2課課長
中澤 佑介 指導2課主任指導主事
内野多美子 学校教育部参事兼総合教育相談室長
清水 雄平 総合教育相談室主任指導主事

7 議 事

1 開会・あいさつ

資料確認

①会議資料 次第・委員名簿

資料

1－(1) 青少年育成事業の取組

1－(2) 子ども家庭総合支援拠点 資料

1－(3) 令和3年度児童いじめ相談受付件数

2－(1) 市立学校のいじめの現状について

2－(2) 市立学校のいじめ防止等に向けた取組について

2－(3) さいたま市の教育相談体制について

2－(4) 「不登校児童生徒支援センター(通称: Growth)」概要
(参考資料)

- 3－(1) さいたま市いじめ防止対策推進条例
- 3－(2) さいたま市いじめのないまちづくりネットワーク規則
- 3－(3) さいたま市いじめのないまちづくりネットワーク運営要綱

- ②「青少年健全育成研修会」資料
- ③青少年育成さいたま市民会議広報紙「はばたき」33・34号
- ④令和3年度「青少年の主張大会」記録集
- ⑤いじめ防止啓発用マイクロファイバークロス、クリアファイル
- ⑥埼玉県青少年課からのパンフレット 2枚
- ⑦さいたま市スポーツ協会資料「スポーツライフ さいたま」

2 委員自己紹介

3 議事

(1) いじめ防止のためのさいたま市の取組について

①市長部局の取組について

- 資料1－(1)、1－(2)により、青少年育成課から説明
 - ・青少年健全育成事業の取組について説明。
 - ・子ども家庭総合支援拠点の資料について紹介。
- 資料1－(3)により、令和3年度児童いじめ相談受付件数について長澤委員から説明。

<質疑・応答>

(沢崎委員長)

先程、青少年育成課長から説明のあった青少年健全育成研修会について、久世副委員長から補足説明があったら、お願いします。

(久世副委員長)

資料②により説明

青少年育成さいたま市民会議では、毎年、青少年健全育成研修会を開催している。例年は外部講師による講演を行っているが、今年度は、青少年育成さいたま市民会議の構成団体である、大宮警察署少年非行防止ボランティア連絡会の西田さんとさいたま市よい本を読む運動推進委員会の高橋さんによる活動報告とした。

大宮警察署少年非行防止ボランティア連絡会は、大宮駅東口の繁華街のパトロールを実施する際に協力いただいております、補導の実態等について報告いただきました。

さいたま市よい本を読む運動推進委員会は、旧浦和時代から50年にわたり活動している。悪書追放、自動販売機の撤去依頼、店内での悪書配置換え等の活動について報告いただきました。

私は「子どもたちに私たちができること」として12項目について話をした。私たちは、各機関団体と連携・協力して取り組んでおり、市民会議と市で、子どもが良い方向に向かうための活動を進めている。

(沢崎委員長)

地域でどのように取り組んでいるかがよくわかった。質問や感想があればお願いします。特にないようなので、続いて教育委員会の取組について説明をお願いします。

②教育委員会の取組について

○資料2－(1)、2－(2)により、指導2課長から説明

- ・いじめの認知件数について報告。件数が増加している理由としては、「けんかやふざけ合いであっても、いじめに該当する場合がある」との認識が広がり、積極的にいじめと認知して対応しているためと捉えている。
- ・いじめ防止の取組として、「さいたま市子ども会議」及び「いじめ防止シンポジウム」について説明。今年度から「子ども会議」に小学生の代表も参加することとした。
- ・今年の「いじめ防止シンポジウム」は8月24日にR a i B o C H a l l で開催する予定。

○資料2－(3)、2－(4)により、総合教育相談室長から説明

- ・さいたま市の教育相談体制について説明し。
- ・今年度4月から始めた「不登校等児童生徒支援センター（通称：G r o w t h）」について、設置目的、対象児童生徒、6月までの児童生徒の参加状況について説明。

<質疑・応答>

(沢崎委員長)

不登校等児童生徒支援センターは、どのようなことを考えて開設したのか。

(総合教育相談室長)

不登校等の児童生徒が孤立しないように、人とのつながりを大切にすることを第一にこの考えから設立した。

(沢崎委員長)

開設してから間もないが、成果と課題について、何かあれば。

(総合教育相談室長)

成果としては、どれだけの人数が参加するか不安だったが、2か月半で100人近くの児童生徒が参加して、つながった。

一方で、Teams を活用したオンライン、チャットによるつながりであるが、カメラとマイクはほとんどの参加者がオフで、子どもの表情が見えない。反応はチャットで返ってきて、声も聞こえない。それを見ながら一人一人の状況を想像しながら反応を返しているが、悩みは様々だろうと思う。それを一概にまとめて指導・助言するのはむずかしい。今後、一人一人にいていねいに対応することに重点を置きたい。

(沢崎委員長)

チャットの場合は、指導主事が個別対応しているのか。

(総合教育相談室長)

オンライン・ホームルームは、全体での指導で、個別の学習相談の時間には、子ども、

保護者と教員で1対1対応をしている。夏休みに入り、個別の面談を始めているところだ。

(沢崎委員長)

取組の状況が良く分かった。他に質問はあるか。

(久世副委員長)

小学校の新一年生で、ずいぶん不登校が出てくる。私が校門で立っていると、この後帰ってしまうのではないかと思われる子がいる。親は、どれだけ知っているのか。はたしてちゃんと勉強しているのか心配だ。その子のために担任が対応しなければならないが、その間、教室の指導はどうするのか。また、放課後に親と一緒に個別に対応していると担任に負担がかかり過ぎてしまう。教育委員会は、どのようにフォローしているのか。

また、コミュニティ・スクールがスタートして、私は3校に関わっている。いじめの状況について会議で触れるが、あまり詳しく説明してくれない。委員から質問も出ない。スクール・カウンセラー、保健室との関りなど、外部にも教えてほしい。コミュニティ・スクールでは、どれだけ委員に対して報告してくれているのか。これだけ取り組んでいるのだから、話してもいいのではないか。

(総合教育相談室長)

小学校1年生の対応、教員のサポート体制についてお答えする。

小学校1年生で、「行きしぶり」、親と離れられない子が、4月と5月、夏休み明けに多くなる。学校としても、校長、教頭も一緒になって対応している。教育委員会では、スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカー、さわやか相談員と連携して取り組めるよう、専門職を各校に配置している。また、スクール・アシスタントを1校当たり3～4人配置して、低学年の教室で支援の必要な子をフォローしている。教育委員会としても、学校に行き始める、最初の段階が重要だと考え、各学校への支援に取り組んでいる。

(指導2課長)

中学校では、別室で指導することや放課後指導をすることがある。教室に入れない、でも学校には行きたいという生徒、別室登校していたり、放課後に来校してきたりして、先生と関わりたい生徒には、できる限り対応している。日中に別室登校している生徒には、スクール・アシスタントを中心にした、その子の課題に合ったサポートをしている教員の負担が増えていること、いじめの対応等、コミュニティ・スクールでは、現状を話していると思う。委員には守秘義務があるので、口外しないよう約束した上で、信頼して話しているのではないか。

平成25年のいじめ防止対策推進法のいじめの定義から、「いじめだ」と捉える保護者が増えていると感じる。学校では、小さなトラブルを通して学びながら大人になっていくのだが、そうは考えない保護者もいるので、小学校では、その対応が増えているかなと思う。

コミュニティ・スクールでは、いい事だけでなく、悪い事も含めて説明するべきだと考えている。

(2) 子どもの状況、各団体の取組について

(沢崎委員長)

子どもの状況、それぞれの団体・機関のいじめ防止の取組について、情報があったら紹介していただきたい。

まず、学校での子どもの様子、取組について紹介してほしい。

(竹越委員)

各学級では、アンケートを実施していじめの状況について把握している。アンケートでは、ほとんど「ない」と回答している。しかし、いつ起こるか分からないので、生徒指導主任を中心に指導体制を整えている。

(沢崎委員長)

4月以降、今までの学校行事等の状況について、コロナ対応も含めて説明してほしい。

(竹越委員)

大分、コロナ前の状況に近づけていく形でスタートした。体育祭も行った。保護者にも時間を限って公開した。PTA活動も人数制限をして実施している。

4月に1クラス学級閉鎖、5月に2クラス学級閉鎖、6月に3クラス学級閉鎖と3学年と2学年で学年閉鎖。7月、終業式前に1学年が学年閉鎖した。部活動の校外での公式戦後に校内で蔓延したようだ。1年生は、球技大会後に広がった。

なるべくコロナ前のように活動できようと、対応しているが、まだまだ厳しい。

(三島委員)

いじめ防止について、さいたま市子ども会議に小学校代表児童も参加することが叶った。全市的な取組に小学生が参加することは意義がある。

本校では、6月のいじめ撲滅強化月間のキャンペーンとして「みんなで考えよう」の気運を高めた。指導主事に話をしてもらい、教員が指導体制について点検した。また、弁護士の方に4年生対象に話をしてもらった。

生徒指導、非行防止は、とにかく日頃の授業をしっかりとやることからと考えている。子どもが満足して学習に取り組むことを目指している。

「いじめ0」を目指すより、「組織で取り組む100%」を目指している。

ちょっとしたトラブル、ぶつかって倒れた場合でも、対応に気を遣うケースもある。

いじめについては、数を減らす、解消する、早期対応することを大切に取り組んでいる。

コロナに関して、7月に入って第7波が来たが、予定通り計画通り行事ができた。行い方には工夫をした。球技大会など他校との交流についても、出場人数を減らす、得点した人数の多いチームに得点を与えるなどのルールの変更もして、工夫した。

(望月委員)

旭川市のいじめによる自殺の件もあるが、「死にたい」という子への対応、命を大切に教育には、どのように取り組んでいるのか。

また、「いじめ」と「いじり」について、「いじられている」子は苦痛を感じているが、「いじっている」子は楽しんでいる。こういう場合は、難しい。どう取り組んでいるの

か。

(三島委員)

命を大切にしている指導は、教育委員会の指導の下、年間を通して計画的に各学年に位置付けて指導している。「いじめ」と「いじり」については、被った側が苦痛を感じれば「いじめ」である。学校で生活していく上で、自分の幸せを大切にすることと同じくらいに他人の幸せも大切にしよう、普段から指導している。例えば宿泊学習の際などにも指導している。「いじり」でも「いじめ」と捉えることが必要と感じている。

(指導2課長)

久世委員から話があったが、校外で集団で揉めているなど、地域の方から連絡があることは、とてもありがたい。学校内の事はできる限り学校内で把握できるよう取り組んでいるが、学校外の状況は把握が難しい。下校時、休日に様子が気になる状況があったら、地域から一報入れてもらえると助かる。

(沢崎委員長)

残りの時間、各団体・機関でこういう取組をしているという紹介があれば願います。

(村山委員)

資料として「スポーツライフ さいたま」を配らせてもらった。日本スポーツ少年団は、1964年の東京オリンピック開催に先立ち1962年に創設された。さいたま市スポーツ少年団は、現在団員数が7千人を超え、日本一の団員数を誇っている。資料の32ページにある「日本スポーツ少年団団員綱領」「日本スポーツ少年団指導者綱領」に基づいて、崇高な使命の元、いじめが起こらないように活動している。

一方で、「あの指導者は気に食わないからやめさせろ」のような誹謗中傷が寄せられたりして、弁護士や法律の専門家にお世話になっていて、講演会も開催している。

さいたま市が合併してからは、管轄が市長部局に移り、教育長のメッセージ等も届かなくなりました。

保護者と指導者とで揉めることがあり、協会では指導者に対して注意してほしいとの要望が多く届く。最近では、「チームを移りたい。」「人権侵害だ。」と苦情や提訴が寄せられたり、勝負にこだわるあまり「〇〇のせいで負けた。」といじめにつながる言動が見られたり、スポーツ根性世代に育った指導者による、逸脱した指導が見られたりして、指導している。このようなことが、いじめにつながらないよう取り組んでいる。

今、一番懸念していることは、中学校の部活動の地域への移行について。受益者負担となり、金銭的に、移動手段等でできない子が出てくること。また、中学校の部活動でなければ、やらない子が増えるのではないかということ。

(西脇委員)

いじめ問題のみならず、相談することがある。学習が始まる前、塾と一緒に来るとき、帰るとき、いろいろなことが起こることがある。そこで、アンケートを実施している。講師にアルバイトの学生もいるので、問題がないか、保護者に確認しながら対応している。

けんかがあり、突き詰めると「いじり」からという話もある。その中でトラブルが収まらないケースが年数件ある。保護者と話をすると、双方が、自分の子どものことを分か

ってほしいと言う。子どもの状況をどこまでつかんで、保護者に対応していくか。コロナについて、かなり影響を受けている。宿泊合宿も、小学生は中止、中学3年生だけで実施となった。

(溝口委員)

子どもたちのために、こんなにも皆さんが取り組んでいることは、ありがたい。親としては、子どもが学校から笑顔で帰って来ることが、ありがたい。

見えないいじめも増えていると思う。未然防止のために、保護者と学校と地域で連携して取り組むことが大切。いじめの原因に家庭が関わっていることもあると思う。PTAとしては、家庭教育の大切さについて取り組んでいる。

(望月委員)

私は子ども会に関わっている。子どもは群れで遊び、社会性を身につけて行く。

子ども会を卒業した、ガキ大将だった子に研修を受けてもらい、ジュニアリーダーになっ
てもらっている。遊びをリードしてもらおうと、大人より年齢の近いお兄さんお姉さん
の言うことは、よく聞くので、成果がある。後に先生になったり、学童の職員になっ
たりする子も増えている。

(沢崎委員長)

最後に久世副委員長にお願いしたい。

(久世副委員長)

私が、仕事で大宮駅東口の高島屋の前に提灯を取り付けていると、「今年は、お祭りある
んですか。」と通りがかりの人が声を掛けてくる。お祭りをしないと知り、残念がっ
ている。

今、このコロナは敵だと思う。子どものふるさと意識をもたせる行事が一切ない。先生
方は、一生懸命できることは何かと考えている。6年生は、一生で1回きり、修学旅行
もできないのは情けないと、つくづく感じる。

何かできるものを、チャンスを提供することが必要だ。

社会的に子ども食堂・ヤングケアラーが注目されている。

子ども食堂は有意義だが、感染が心配でやめてしまったところが多い。

ヤングケアラーについて、中学校で「この学校に、こういう子、いますか。」と聞いた
ら、「いないと思います。」と先生が答えた。私はそんなことないんじゃないか、苦勞し
ている子がいるんじゃないかと思う。区役所の支援課や福祉課に、どれだけ相談がきて
いるか尋ねると、それほど来ていないと言う。中学校等から報告がないと、状況が分か
らないようだ。

見守り活動や声掛けについては、民生員児童委員の会議でも話している。

最近、自治会の地区懇談会があった。ある学校地域連携コーディネーターが、毎日あい
さつをして、あいさつが返って来る率が60%であり、100%目指して挑戦していると
話していた。やはり、声掛け、あいさつする子を育てる地区でありたい。

今回は、各団体・機関の取組を紹介してもらいたい。

(沢崎委員長)

時間になったので、ここで終了とし、議長を降りさせていただきます。

4 その他

事務局から、いじめ防止の啓発品について、第2回いじめのないまちづくりネットワークの日時・会場について連絡をした。

5 閉会